



「ことばは、新しい発見に満ちている」

川島淳夫さん
(文京町)

「外国語を身につけることは、まず耳で聴いて何度もまねることです」と穏やかに語る川島さんは、ことばの本質や構造、歴史的变化などを科学的に明らかにしようとする言語学の研究者だ。

自身の専門でもあるドイツ語を生かして地域の人たちと触れ合いたいと考えていたので、獨協大学外国語学部の教授職を定年退職後、市の国際交流協会のドイツ語講座で講師を務めている。さらに、講座が終わった後も希望する生徒の自主勉強会に、講師として積極的に協力している。「もともとは教師になるため、教育大学に進学しました。人に教えることが大好きなので、勉強会も一番楽しんでるのは私かもしれません」

研究の分野では、19世紀の言語学の紹介に取り組んでいて、500ページにも及ぶドイツの言語学者ガーベリンツの著書を、一年半かけて翻訳した。「30代の頃にこの本と出会い、非常に感銘を受けました。日本語には訳されていないので、いつか自分で翻訳したいと考えていました。40年近くたってようやく夢がかないました。次は、20世紀の言語学との比較を考えています」とうれしそうに話してくれました。

英語と中国語も習得しているが、現在は新たに韓国語の勉強をしている。「外国語の学習は、何歳からでも始められます。知らない言語を学ぶと、新しい発見があった面白いです」。川島さんの学習意欲は、とどまることを知らない。

子ども作品展



中村小6年
はるか
浜田悠花さん



中村小6年
ゆうた
中村優太さん



「すごいきれい」
中村小4年
こういち
岩瀬滉一さん



「ばったさんとあそんだよ」
中村小2年
シング・ステーシーさん

